

心に残る文化財子ども塾～飯南町立頓原小学校～

1. 活動の概要

6月26日(金)、飯南町立頓原小学校で「古代の人々の暮らしについて学ぼう」と題して『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

まずは古代のお金と和同開珎について説明したうえで、和同開珎づくり体験を行いました。各グループで役割を分担し、協力して作業してもらいます。体験を通して、お金の歴史や特徴について考えてもらいました。

作業の合間には、頓原出土の奈良時代の土器の実物を用意し、実際に触れてもらう機会を設けました。1300年前の土器の本物を手に取る機会はその多くはないので、貴重な体験になったのではないかと思います。

2. 活動の様子



和同開珎づくりスタート



みんなで手分けして作ります



きれいに出来ました！



本物の土器に触ってみよう

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・お金を作る道具はどうやって手に入れたのか？などのことも知りたい。
- ・頓原にも昔つくられた土器が眠っていたと聞いてびっくりした。
- ・次はレプリカの土器もつくってみたい。

2)担任の先生から…

- ・子どもたちとたくさん関わって頂き、たのしそうだった。
- ・作る、触れるといった体験により、興味・関心が高まった。
- ・昔と今をつなげる問いがあり、考えやすく、新たな知識として獲得しやすかった。

3)古代文化センターから

学校がある飯南町頓原からも、奈良時代の土器などが発掘調査によって確認されています。本物の土器に触れてもらう機会を作ったことで、皆さん大変興味を持った様子でした。自分たちの住んでいるところで、古代の人々はどのような暮らしをしていたのかを少しご紹介できたので、地域の歴史に興味をもってもらきっかけになったのではないのでしょうか。

和同開珎づくり体験では、3～4人のグループに分かれて作業してもらいました。合金を鋳型に流し込んだり、枝銭から銭を取り外したりするのはなかなか難しいのですが、どのグループも作業を分担し、協力ながら上手につくることができたと思います。島根県内でも和同開珎が見つかっていますので、機会があれば博物館に足を運んで本物を観察してもらえると嬉しいです。